

1 単元 「明治維新」

2 指導観

- 憲政史上最長の在任期間を残した元総理大臣の突然の死は世間を脅かせ、国葬儀を巡る議論は国論が二分される状況にあった。平成から令和という変化の時期に、実施された政策を短期的な視点だけではなく、後の社会にどのような影響を与えるかという長期的な視点が求められている。

本単元は、明治維新が市民革命か否か評価することを通して、明治維新が諸制度の改革のみならず、立憲主義的で民主主義的な国家をつくる過程であり、その過程で人々の生活が変化したことを捉えることをねらいとしている。学習内容としては、近世身分制度の解体の過程、欧米における市民革命や国民国家の形成、富国強兵・殖産興業政策と人々の生活、大日本帝国憲法による立憲君主制による天皇大権の制限、近代国民国家の条件、明治維新の変化と民衆の反抗などである。これらの学習内容を江戸時代との連続性や変化や市民革命における市民とはどのような存在であったのかという視点から分析し、明治維新が市民革命であったかを検証することで、近代の国民国家の条件を見だし、独立自尊の国家運営をしようとした先人の努力と帝国主義時代における我が国の国際的地位の向上の必然性を実感できる。以上により、本単元を学習することは、日本の近代化における明治維新の価値を多面的・多角的に再認識する上で大変意義深い。

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、明治維新が市民革命であったか検討させることで、中央集権的な国家体制への変化と議会制民主主義の誕生という民主的な変化の視点で吟味させ、日本の近代化の過程を捉えさせたい。そのためにまず、伊藤博文が初代内閣総理大臣に就任できた要因を分析する。ここでは、明治維新による変化を捉えさせるために、伊藤博文の出身身分を示し、江戸時代なら高い地位につけたかを問う。次に、近代国家への変化を分析させる。ここでは、欧米において市民革命により成立した国民国家の姿を見出させるために、市民革命前後の社会の変化を分析させる。また、三大改革や自由民権運動の経過や結果が国民国家に必要であったことを見出させるために、江戸時代との相違点を問う。さらに、明治維新が市民革命であったか否か話し合わせる。ここでは、明治維新を多面的に分析させるために、三角ロジックを用いた立論を促し、同意見の者同士で意見を交流させる。また、自ら明治維新観の反証を促すために、維新の変革は誰のためのものであったか問う。最後に、明治維新とは日本にとってどんな意味を持つものであったのかレポートにまとめさせる。ここでは、明治維新に対する評価が複数あることを捉えさせるために、歴史家の明治維新観を示す。

3 目標

- 明治維新について、幕末、明治初年、自由民権運動と帝国議会開催までの3つの時期における諸政策や社会の変化や民衆の運動から分析し、その意義を説明することができる。
- 明治維新がどのような変革であったかについて、史料を批判的に吟味し、他者との納得解を導く立場から議論を調整することができる。
- 日本の近代国家の形成において、明治維新が果たした役割や意義を市民革命であったか否か追究しようとしている。

4 計画 (7時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の観点
一	1	1 伊藤博文が初代内閣総理大臣に就任できた要因を分析する。 ・近世身分制度の解体 ・立身出世主義 単元課題 明治維新が『市民革命』であったのか否かを評価しよう	○ 明治維新による変化を捉えさせるために、伊藤博文の出身身分を示し、江戸時代なら高い地位につけたかを問う。	態：明治維新による国内の変化を追究しようとしている。
二	4	2 近代への変化を分析する。 (1) 欧米における市民革命による変化を調べる。 ・平等な社会の実現 ・国民国家の形成 (2) 明治維新における変化を調べる。 ・脱封建制の達成 ・日本人の形成 (3) 自由民権運動が求めたものを分析する。 ・五箇条の御誓文の実現 ・議会制民主主義の成立 (4) 大日本帝国憲法を分析する。 ・立憲君主制による統治 ・天皇の権能と臣民の権利	○ 革命前後の社会の変化を捉えさせるために、人権宣言を分析させ、近代国家とは何かを問う。 ○ 近代化の背景に着眼させるために、三大改革による変化と江戸時代の社会を比較させ、その違いを問う。 ○ 自由民権運動の目的をとらえさせるために、五箇条の御誓文と民選議院設立建白書を比較させ、運動の主体が何かを問う。 ○ 憲法によって、天皇と権限が規定されていることに気が付かせるために、絶対王政と比較させ、その権限の範囲を問う。	知：欧米における市民革命後の社会の姿について説明することができる。 知：封建社会の崩壊と統一国家としての新たな日本の姿について説明することができる。 知：自由民権運動の到達点について説明することができる。 思：明治の元勳が目指した国家の姿をイメージマップに書き表すことができる。
三	本時	3 明治維新が市民革命であったか否か話し合う。 ・近代国家の条件 ・革命の主体 ・明治の人々にとっての「御一新」	○ 明治維新について省察させるために、「市民革命だったのか」を述べ合わせた後、「近代化に必要なものはなにか」と問う、 ○ 話し合いを円滑に進めるために、三角ロジックを共有させる。	思：明治維新に対する評価を話し合うことを通して、他者の評価を参考にして、自己の明治維新観を再考することができる。
四	1	4 課題についての結論をレポートに書く。 ・官軍と賊軍 ・歴史家の明治維新観	○ 明治維新に対する評価が複数あることを捉えさせるために、歴史家の明治維新観を示す。	態：明治維新とは日本の歴史においてなんだったのかを追究しようとしている。

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第3校時 計画 第三次の2 2年3組教室にて

(1) 主 眼

○ 明治維新に対する評価を話し合うことを通して、他者の評価を参考にして、自己の明治維新観を再考することができる。

(2) 準 備

- ①『詩経』における「維新」 ②明治維新の英訳 ③三角ロジック ④太政官・各省官員の出身別人数(明治5年・10年) ⑤江戸時代と明治時代を比較した表 ⑥明治期の一揆の発生件数 ⑦ベルツの日記 ⑧大日本帝国憲法 ⑨フランス人権宣言 ⑩易姓革命の説明

(3) 過 程 I…コンフリクト II…内化1 III…外化(内化2) IV…リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
1 明治維新とは、なんだったのかを考察する。 ・御一新としての維新 ・復古としての維新 めあて 明治維新について話し合い、その歴史的評価を見直そう	① ②	I	○ 明治維新観の二極性を捉えさせるために、中国の古典である『詩経』における「維新」と明治維新を英訳した「Meiji Restoration」を示し、どちらが正しく表しているかを問う。	一斉 ↓ 個	5
2 同一グループ内で意見交換をする。 ・徳川氏から天皇 ・藩閥政府と幕府官僚	③ ④	II	○ 変化の主体を考察させるために、幕末から明治の年表を示し、維新の主役は誰かと問う。 ○ 論点の違いに着目させるために、前時で調べた内容を共有させ、相互の意見を見直すように指示する。	一斉 ↓ 個	10
3 明治維新に対する評価を話し合う。 ・時代の連続性と変化 ・民衆の反発 ・立憲君主制を前提とした大日本帝国憲法	⑤ ⑥ ⑦	III	○ 話し合いを活性化させるために、論点ごとに発言を促すとともに、賛否相互の三角ロジックを閲覧可能な状況にして、話し合わせる。 ○ 議論が過程に傾いている場合は、結果に着目させるために、江戸時代との連続性と変化について、二つの時代の違いについて問う。 ○ 議論が「市民革命である」という評価に偏っている場合は、民衆の立場に着目させるために、三大改革に反対する一揆の発生件数を示し、民衆の支持はあったのかを問う。 ○ 議論が「市民革命でない」という評価に偏っている場合は、国体が立憲君主制であったことに着目させるために、大日本帝国憲法を示し、絶対王政と同様であったかを問う。	一斉	25
4 自分の評価を見直し、イメージマップに書く。 ・近代国家の条件 ・革命の主体 ・国民国家としての日本	⑧ ⑨	IV	○ 議論の結果が「どちらともいえない」という評価になった場合に、近代国家の姿を見出させるために、明治維新の成果は何かと問う。 ○ 再考を促すために、フランス人権宣言を示して、欧米の市民革命が求めたものは何かを問う。 ○ 明治維新による変化を批判的に吟味させるために、「維新の改革は誰のためのものなのか」という発問をなげかる。 ◇ 異なる明治維新観を踏まえて、自らの明治維新に対する評価を書き加えることができる。 ＜学習プリント分析、様相観察＞	一斉 ↓ 個	10

1 単元 「地方自治と私たち」

2 指導観

- 学制発布から150年を迎えた。欧米に倣った近代教育制度は時を経て日本型学校教育として発展し、さらに現在は教育DXによる制度改革の渦中にある。次代を担う生徒には、既存の制度を完成されたものとして安易に受容せず、飽くまでも社会形成の主体であり続けることが求められる。

本単元は、国政とは異なる地方自治特有の制度の意図を踏まえた地方行政への住民参加を行なう準備や実践を通して、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を向上させることをねらいとする。主な学習内容は、ブライスが想定した「民主主義」、「民主主義の学校」としての地方自治、我が国の地方自治制度、二元代表制、国政と地方自治の相違点と制度の意図、実際の地方行政の概要、地方公共団体が抱える課題、地方自治が予定する地方行政への住民参加の方法、請願・陳情・提案等の方法の概要、地方行政への住民参加の結果として得られた回答等と民主主義との関り、住民参加によって変化した地方行政の実例と民主主義との関りなどである。国家及び社会の形成者に具備すべき自治意識は、既存の制度の妥当性を常に問い続け、「自分の力で社会は変えられる」といった政治的な自己効力感の高まりによって涵養される。本単元は、そうした自治意識を備え、主体的に社会形成に関わり続けようとする主権者を養う上で意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、地方自治が住民参加による住民自治を基本理念とする意図を踏まえた上で、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を向上させることができるようにしたい。そのためにまず、ブライスが想定する民主主義について捉え、地方自治が最良の学校である理由を探らせる。ここでは、地方自治への関心を高めさせるために、身近な地方自治の成果や課題を例示し、地域の形成主体は誰であるべきか問う。次に、国政と地方自治の相違点を整理し、二元代表制を採る地方自治制度の意図を探らせる。ここでは、国政とは異なる二元代表制を採る地方自治と民主主義との関連に着目させるために、国政と地方自治の相違点を図表にまとめさせ、二元代表制の利点と欠点について問う。さらに、地方行政への住民参加を通して、地方自治の意義を捉えさせる。ここでは、課題解決を求める住民参加の手段や内容の妥当性を高めるために、住民参加のプレゼンテーション及びルーブリックを用いた相互評価の場を設定する。最後に、地方自治が最良の学校であるといわれる理由について説明し、主権者及び住民としての在るべき姿について意見を表明させる。ここでは、主権者及び住民としてあるべき姿について意見表明させるために、実際の地方公共団体からの回答等を用いて住民参加の効果を実感させる。

3 目標

- 地方自治について、国政との相違に着目し、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み及び住民の権利や義務について説明することができる。
- 民主主義の学校とよばれる地方自治の意義について、直接請求権や請願権、陳情といった権利や手続きの行使を通して多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- 社会や政治、自身に身近な地方自治へ主体的に参加し、関心を持ち続ける主権者としての自覚を高めようとする。

4 計画 (5時間)

知:知識・技能 思:思考・判断・表現 態:主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の観点
一	1	1 ブライスが想定した民主主義について捉え、地方自治が最良の学校であるといわれる理由を探る。 ・ブライスが想定した「民主主義」 ・「民主主義の学校」としての地方自治	○ 地方自治への関心を高めさせるために、身近な地方自治の成果や課題を例示し、地域をつくる主体は誰であるべきか問う。 ○ 単なる重要語句としてしか捉えていない「地方自治は民主主義の学校」という言葉を問い直させるために、要約した原典を資料提示する。	態:地方自治への関心を高め、地方自治が民主主義の学校であるとされる理由について問い直し、民主主義と地方自治との関係について明らかにしようとしている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">単元を貫く課題</div> 地方自治は本当に民主主義の学校となっているのだろうか？				
二	1	2 国政と地方自治の相違点を整理し、二元代表制を採用する地方自治制度の意図を探る。 ・地方自治法 ・地方自治制度 ・二元代表制 ・国政と地方自治の相違点と制度の意図	○ 国政とは異なる二元代表制を採用している地方自治と民主主義との関連に着目させるために、国政と地方自治の相違点を図表にまとめさせ、二元代表制の利点と欠点について問う。	知:地方自治特有の二元代表制の特徴を捉え、地方自治が実現しようとしている民主主義の内容について説明している。
三	2	3 地方行政への住民参加を通して、地方自治の意義を捉える。 (1) 住民として居住する地域を調査し、地域が直面する課題を把握する。 ・居住する地方公共団体で行なわれる地方行政の概要 ・地方公共団体が抱える課題	○ 想定した課題が地方行政の範疇になじむか、また現実問題として解決の手だてが存在するかといったことを判断させるために、ルーブリックを作成させる。	思:居住する地域の現状を様々な行政資料から調査し、地域が抱える課題を把握している。
	本時	(2) 地方行政へ住民参加を行なうための資料を作成する。 ・地方自治が予定する地方行政への住民参加の方法 ・請願, 陳情, 提案等の方法の概要	○ 課題解決を求める住民参加の手段や内容の妥当性を高めるために、住民参加のプレゼンテーション及びルーブリックを用いた相互評価の場を設定する。	思:様々な住民参加の方法があることを踏まえ、適切な手段や現実に即した内容で住民参加に関する資料を作成している。
四	1	4 地方自治が最良の学校であるといわれる理由について説明し、主権者及び住民としての在るべき姿について意見を表明する。 ・地方行政への住民参加の結果として得られた回答等と民主主義との関り ・住民参加によって変化した地方行政の実例と民主主義との関り	○ 地方自治が民主主義の最良の学校であるといわれる理由について単元の学習内容を踏まえて説明させるために、1枚ポートフォリオを用いて論述させる。 ○ 主権者及び住民としてあるべき姿について意見表明させるために、実際の地方公共団体からの回答等を用いて住民参加の効果を実感させる。	態:住民参加によって地方行政に変化が起きることを実感し、地方自治が住民の主体的な参画によって成立することを踏まえ、民主主義の担い手としての自覚を高めようとしている。

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第4校時 計画 第三次の2 3年2組教室にて

(1) 主 眼

○ 身近な地方公共団体が抱える課題の内容や解決方法の妥当性を検討する活動を通して、地方行政への住民参加を行なうための資料を作成することができる。

(2) 準 備

①ブライス著『近代民主政治』抜粋 ②課題や解決方法の妥当性や現実性の判断基準となるルーブリック ③相互評価シート ④地方公共団体が予定する住民参加の方法(Web検索) ⑤請願, 陳情, 提案等の様式例(Web検索) ⑥住民参加シート

(3) 過 程 I…コンフリクト II…内化1 III…外化(内化2) IV…リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
<p>1 前時に把握した身近な地方公共団体が抱える課題をもとに、本時のめあてをもつ。</p> <p>・住民自治を基本とする地方自治の理念</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 課題や解決方法の検討を通して、地方行政を動かすための準備をしよう。</p> </div>	①	I	○ 把握した課題を机上の空論で終始させないために、課題を2～3人で共有させ、それぞれの課題や解決方法に妥当性や現実性があるか問う。	全体 ↓ ペア ↓ 全体	5
<p>2 前時に作成したルーブリックを確認し、プレゼンテーション交流及び相互評価の準備をする。</p> <p>・課題解決を求める住民参加の手段や内容の在り方</p>	②	II	○ 想定する課題や解決方法のプレゼンテーションを効果的かつ具体的に行なわせるために、ルーブリックを活用させて発表内容の自己評価を行なわせる。	全体 ↓ 個 (班)	5
<p>3 身近な地方公共団体が抱える課題の内容や解決方法の妥当性を検討する。</p> <p>・地方行政の役割 ・地方自治が予定する地方行政への住民参加の方法 ・請願, 陳情, 提案等の方法の概要</p>	③ ④ ⑤	III	○ 課題解決を求める住民参加の手段や内容の妥当性を高めるために、住民参加のプレゼンテーション及びルーブリックを用いた相互評価の場を設定する。	班	20
<p>4 地方行政への住民参加を行なうための資料を作成する。</p> <p>・地方自治の発展に寄与しようとする住民の在り方 ・住民がもつべき自治意識</p>	⑥	IV	○ 地方行政を動かす効果的な住民参加ができるような資料を作成させるために、地方自治発展への寄与や自身の自治意識の高まりといった点を振り返りの視点として提示する。	個 (班) ↓ 全体	20
			◇ 実際の身近な地方公共団体の政治に即した課題の内容や解決方法を踏まえ、請願や陳情といった公的な手続き方法に則った地方行政への住民参加に関する資料を作成することができる。		
<OPP・成果物・様相観察>					